

しがらいい 志賀来ふ

ふるさと志賀来の今とこれからの暮らしのススメ

vol. 3

2017年12月15日
志賀来地区
ふるさと交流実行委員会

発行部数：475部

女神山の冬

長原牧場から見た女神山（撮影：加藤茂）

志賀来ふ vol.3 2017年12月15日発行 発行者／志賀来地区ふるさと交流実行委員会 〒029-5611 岩手県和賀郡西和賀町沢内 字新町 10-19 TEL 090-9537-3644（事務局：加藤茂）

空き家情報

太田 - 1



分 類	売却
構 造	木造 2 階建
電気配線	有
電話配線	有
光回線	有
水 道	上水道 / 下水道
トイレ	水洗
周辺施設	バス停徒歩 3 分
付属物	駐車スペース 小屋

前郷 - 2



分 類	売却
構 造	木造 2 階建
電気配線	有
電話配線	有
光回線	無
水 道	上水道 / 下水道
トイレ	水洗
周辺施設	役場沢内庁舎へ 車で 10 分 さわうち病院へ 車で 10 分
付属物	小屋・田・畑
備 考	旧商店

前郷 - 3



分 類	賃貸・売却
構 造	木造 2 階建
電気配線	有
電話配線	有
光回線	不明
水 道	上水道 / 下水道
トイレ	水洗
周辺施設	バス停徒歩 1 分
付属物	駐車スペース 小屋

懐かしい卒業写真



昭和 40 年度



初冬の志賀来風景
(2017.11.27)

こんなこともしてます若者たち

地域で活動する若いお母さん達の集まり「前郷若妻会」にお話を聞きました。

若妻会ってどんな会ですか？

若妻1 結婚して前郷に住んだら強制入会。でも集まりへの強制はない。来るもの拒まず、出るもの追わずで、会員数は20人位かな。

西和賀町のよいところは？

若妻1 面白い人が多い。地元の人に仲良くしてもらえるのは本当に嬉しい。旦那さんと喧嘩してもメンバーに会えなくなると思うと離れられない。みんなで旅行行きたい。

若妻2 子どもがいるから、今は外にあんまり遊びに行けてないよね。

若妻1 西和賀に来てよかったのは、若妻会の人に出会えたこと。

若妻3 地元の人もよそから来た人を頼ってくれるところがいいね。あとは、メンバー間で『ちよつとそれはないんじゃない』とも言える。お互いの子供にも言える。

若妻1 子供もよそのお母さんに親しんでいる、子育てもお互いさま。かあつて、疲れそう。

見栄の張り合いはないですか？

一同 ない！（揃って）

集まる場所がありますか？

若妻1 ラインで愚痴を言っ、集まろう！って言う。

志賀来の風景



田植え (2017.5.27)
約1反歩 (992㎡) の田んぼに苗を泥んこになり植えました。



収穫祭
(2017.11.23)
餅つき餅まきを楽しみ、いっぱいお餅を食べました。

稲刈り (2017.9.24)
見事に実った稲を刈り、はせがけ天日干しをして美味しいお米をつくりました。



廃品回収 (2017.8.26) 児童の活動資金に役立てます。



若妻2 老後はお互い介護している。老老介護。あとは子供には面倒見てもらいたいから、地元に残って欲しいかな。

習い事はさせてる？

若妻4 野球。選択肢は少ないかな。

若妻2 うちがピアノやらせてる。

若妻3 じいちゃんばあちゃん繋がりでやよい会にも参加してるけど、子供たちも踊りは楽しいみたい。

住んでいて困ったことは？

若妻1 神棚、お墓参りなど文化の違いは慣れるまで時間はかかる。あと、飲み屋が少ないこと。

若妻4 ネットもあるし、不便さは感じないけど。

最後にいったいことをどうぞ！

若妻4 この歳になつて友達ができるのはすごいよ！

若妻1 よその人もなじめることを伝えたい。

若妻2 飲んで騒いで泣いて、で盛り上がる。それが大事。

若妻1 旦那には言えないことも言える。若妻会があるからこそ、結婚生活は成り立っている。

本当に仲の良い『前郷若妻会』の皆さんでした。

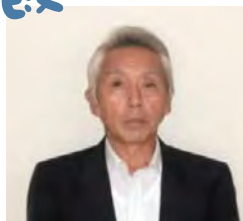


鍵飯地区では、今年の8月から町が勧めている「地域介護予防活動・日常生活支援事業」に取り組んでいます。引きこもり老人を外に連れ出し、一緒に健康体操をして元気に過ごしてもらうこと、買い物支援やバスハイクの楽しさを提供すること

元気老人を目指して

づあいさつ

鍵飯



鍵飯地区区長
和泉 昭さん

などを目的としています。

10月25日、初めてのバスハイクで平泉中尊寺と毛越寺に紅葉狩りに出かけました。紅葉と遺産群との佇まいに、以前訪ねた頃を思い出し、感慨を強くした様子でした。帰りには買い物と車中でのアルコールは、程よく旅の楽しさを盛り上げてくれるもので、楽しいバスハイクが出来ました。介護に頼らない「元気老人」を目指して元気な地域づくりが大切な事と思います。

さて、本誌は交流人口の拡大と人口減少対策の一貫で発刊しています。町の人口は平成17年から1500人も減少しました。北上では製造業種の人手不足が続いており、今後も就業人口の拡大が見込まれています。みなさんは非地元に戻り働いてもらえないでしょうか。

志賀来全6地区のうち2地区ずつ、区長から近況報告と「づあいさつ」です。

コミュニケーションが

地域の活力を生む

新田



新町公民館長
加藤 茂さん

ことも大切だと思っています。交流できる場をつくるなど良いアイデアがありましたらお知らせ下さい。

最後に、2月に行われる雪あかりのデザインを募集しています。興味のある方は加藤までお知らせください。 shigarai4649@gmail.com



住んでいる地域を大切にしながら
西和賀町全体のことを考えられる人が多い



【地区名 旧沢内村太田】
ひろた 廣田 宏さん(55)

故深澤晟雄村長が乳児死亡率ゼロを達成した年である昭和37年生まれ。西和賀高校卒業、京都の大学を卒業後、家業の浄円寺の手伝いの後、社会福祉協議会に就職。現在事務局長を務めながら浄円寺の住職も務める。

母、妻、子供4人、男の子二人、女の子二人の7人家族だが長男、長女はそれぞれ町外の大学で学んでいる。

志賀来の人

志賀来で頑張る人にお話を聞いています。今回は住職と社協職員の2足の草鞋を履く廣田さん

住職と社協の2足の草鞋

私は、浄円寺の住職の側ら社会福祉協議会の職員として勤務しています。二方向から違った視点で西和賀を見たとき改めて素晴らしい地域と思います。

まず寺院での視点では、人生の終焉を迎え、悲しみに拉がれている方々との関わりが生じます。葬儀への向けての地域へのお知らせから、寺院の送迎、役割。そして中陰という一つの区切りまで、親類縁者のみならず多くの方の関わりで進められています。

よく、「結」という言葉を聞きますが、地域の相互支援により、喪主は安心して葬儀を出せる環境にあり、言い換えれば、地域の悲しみは「お互い様」、地域の一員として共存できる環境と言えます。最近では業者さんに全てを任せることも多いようですが、このような関係は今後も続いて欲しいと思います。

社会福祉協議会の視点では、旧沢内村での深澤晟雄村長さんの実績はあまりにも有名ですが、民間サイドでも作り上げてきたものは沢

山あることを知りました。

ワークステーションの前身である「いつくし苑」（協働福祉作業所）はまだまだ障がい者理解も浸透していない昭和60年に立ち上がりました。スノーバスターズ、見守りシステムも、町全体を網羅するそして先駆的な事業として定着してきました。

全体を見渡せる人の多さ

こんなことをふと思い起こすとき、西和賀の人は、自分の住んでいる地域を大切にしながら、西和賀全体に視点を向けられる人が多い地域と感じます。

増田寛也さんが座長を務める日本創成会議で、消滅可能性自治体のトップとして西和賀町を上げておられますが、これだけ地域力を高められる人々が生活する西和賀ではそんなことはありえないと信じています。

私も、地域の一員として西和賀を盛り上げられるよう微力ではありますが、関わりを深めていきたいと思います。

志賀来に住んで頑張る若手に、志賀来暮らしの実感を語ってもらいました。

志賀来の 若いチカラ

【大野】 高橋 聡さん (43)

大学卒業後3年間の会社員を経て、家業である農業に従事して16年目を迎える。お爺さん、お婆さん、父母、嫁、長男の4世代同居の7人家族、妹さんは東京暮らしを満喫中。



志賀来を離れて活躍する出身者に、今の生活を聞きます！

こんな ところに!? 志賀来人

【分沢出身】 北海道在住 黒淵 澄夫さん (69)



昭和23年、分沢生まれ。大学卒業後、埼玉県で小学校教師として教鞭を取った後、南知床ヒグマ情報センター理事(事務局)として活動。実績から北海道大学院獣医学部の非常勤講師にも任命され、学生たちに指導をしている。



北海道に住んでいます

こんにちは、分沢生まれの黒淵澄夫です。平成19年から北海道の標準津町に住んでおります。北海道に永住を決めたきっかけは、標準津の図書館に行った時のこと。「テント生活の者にも本を貸出してくれますか」と問い合わせをしたら「テントで生活している人に悪い人はいないでしょ」の一言でした。

今は地元の猟友会のみなさんや北海道大学の学生たちとヒグマやエゾシカの生態調査や、共存の在り方を研究するなど自然を相手に生活をしております。

志賀来と和賀川

志賀来山と和賀川という言葉の響きのなんと柔らかいことか！ふるさとはいとも身近に感じています。

北海道から帰郷するとき、盛岡で高速を降りて、山伏峠を越えるといよいよ沢内村です。貝沢の開拓地を眺め川舟の牛のセリを思い出しながら走ります。岩魚すむ川や母の実家、七内のことや長瀬野の山に祖父達と牛を放牧したことな

しいたけと南部かしわ

3棟のしいたけハウス経営を家族で協力しながらやっています。

大野集落営農組合員として豆・ソバを二十町歩ほどやっているのので4月から11月中頃まで大忙しです。作業は、大野の区長さんや組合員の方々に草刈り等々、協力してもらっているんです。

また、西和賀町の新たな新ブランドとして期待されている南部かしわの飼育にも取り組んでいます。南部かしわは、ふるさと納税の返礼品にも加わっていただきましたが現状では羽数が少ない為、量で勝負が出来ないことから販売先や加工スタイルを模索中です。

趣味はバイクとスキー

趣味は、バイクでツーリング、冬は、スキー。ツーリングでは、絶景ポイントを巡っています。後は、小学3年生の息子とスキー教室と一緒に参加するなど体を動かすことが好きです。

奥さんは川舟出身の同じ年です。同じ歳同士で結婚したのは、同年

ど走馬灯のように脳裏を過ぎます。志賀来の麓の沢で岩魚を釣り、和賀川ではハヤやカジカを獲っていました。懐かしい少年時代でした。

猟師になって！

旅で訪れた道東にはエゾシカやヒグマが生息しています。自分が一番やりたいことは猟師になることです。ヒグマを捕まえて発信機をつけて生態調査をしたり、増えすぎたエゾシカを獲って被害防止に役立てたり。漁業被害防止のためにトドの採捕や追い払いもあるなど、毎日を少年時代のように過ごしています。一度だけの人生、こんな暮らしも良いものです。

過疎の楽しみ

人口が増えるのも、減っていくのも時代の流れでしょう。過疎という響きは寂しさが付きますが、沢内の暮らしを楽しむことから全てが始まります。

何処に暮らしていても、毎日が楽しく過ごせることが最高の幸せです。

代では唯一だと思っています。

今の仕事はストレス無し

家業を継ぐ事がきっかけで帰ってきました。田舎ぐらしは、自分にあっていると思います。以前、盛岡で3年間、住宅会社の営業のサラリーマンをやっていましたが、それと比べると今の仕事はストレスがありません。自分で好きなように時間を使える、そこが農業の良い所。サラリーマン時代では考えられない事です。田舎なりの楽しみを探して生きたいと考えています。

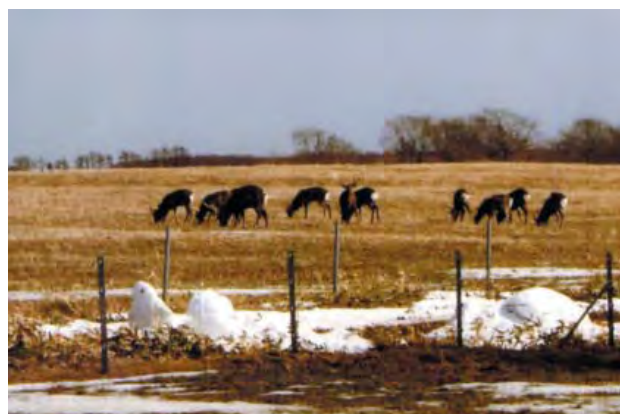
しいたけ、水稲、ソバ、大豆、南部かしわと忙しい毎日。西大野の若きスペシャリストとして頑張っています。



収穫作業が大変なほどたくさんのしいたけ



ふるさと納税の返礼品としても人気の南部かしわ



春先のエゾシカ これは小さな群れです。



サケ釣り 太公望が早朝から集合。今期は不漁でした。